

香川県における「和爾賀波」伝説について

森 孝宏*

A Legend of “Wanikawa” in Kagawa Prefecture

Takahiro MORI

Synopsis

This paper describes an analysis of a legend called Wanikawa in Kagawa Prefecture. This legend says that Toyotamahime, a daughter of the god of the sea, went up to some rivers, stayed at some places and was enshrined there. It has been told in the eastern part of Kagawa Prefecture. Many shrines are dedicated to the daughter as a god and they are distributed along the river. It is thought that it is because there was a main transportation system along the river in old times. Some shrines dedicated to her are also situated in inland and mountainous areas. It is thought that people enshrined the daughter even among the mountainous areas far away from the river because she was also a god of rain.

はじめに

『古事記』上巻、海幸彦・山幸彦の神話は、日本のみならず、環太平洋・東南アジアの諸民族に広く見られる説話であるという。詫間町にあるという「浦島」伝説とも、関連が指摘されるところであるが、香川県東部には、海神の娘である豊玉姫と山幸彦との間の子である鵜草葺不合命にかかる社伝を残す神社が存在していて、興味深い。

『香川県神社誌』には、次のような記述がある。

第一編 概説 第三章 歴史、伝説と神社

小豆郡豊島村及び木田郡屋島町に鵜草葺不合尊御降誕のことを伝え、豊島村には豊玉神社があるがこれは非公認神社である。木田郡屋島町鵜羽神社は葺不合尊を祀り、之に関連して井戸村郷社和爾賀波神社・下高岡村郷社鰐河神社に豊玉姫命が鰐魚に化して流を遡り鎮座せられた事を伝えてある。右の二社の内何れかは延喜式内神社である。又香川郡直島村の村社豊玉姫神社・豊玉依姫神社等この事を伝えてある。

(『香川県神社誌』¹⁾)

以下、『香川県神社誌』を資料として、「豊玉姫」「鵜草葺不合命」関係について概観を試みる。郡市名・神社番号・祭神名は、『香川県神社誌』の記載をそのまま用いる。

1. 「和爾賀波」伝説

海神の娘が川を遡上し、鎮座したとする上記伝説を「和爾賀波」伝説と筆者は名付ける。

「和爾賀波」伝説の元になったと思われる『古事記』には、以下のように記してある。

1) 『古事記』

是に海神の女、豊玉毘売命、自ら参出て白ししく、「妾は已に妊身めるを、今産む時に臨りぬ。此を念ふに、天つ神の御子は、海原に生むべからず。故、参出到つ。」とまをしき。爾に即ち其の海辺の波限に、鵜の羽を葺草に為して、産殿を造りき。是に其の産殿、未だ葺き合へぬに、御腹の急しさに忍びず。故、産殿に入り坐しき。爾に産みまさむとする時に、其の日子に白したまひしく、「凡て佗国の人、産む時に臨れば、本つ国の形を以ちて産生むなり。故、妾今、本の身を以ちて産まむとす。願はくは、妾

*一般教科

をな見たまひそ。」と言したまひき。是に其の言を奇しと思ほして、其の産まむとするを竊伺みたまへば、八尋和邇に化りて、匍匐ひ委蛇ひき。即ち見驚き畏みて、遁げ退きたまひき。爾に豊玉毘売命、其の伺見たまひし事を知らして、心恥づかしと以為ほして、乃ち其の御子を生み置きて、「妾恒は、海つ道を通して往来はむと欲ひき。然れども吾が形を伺見たまひし、是れ甚作づかし。」と白したまひて、即ち海坂を塞へて返り入りましき。是を以ちて其の産みましし御子を名づけて、天津日高日子波限建鵜草葺不合命と謂ふ。然れども後は、其の伺見たまひし情を恨みたまへども、恋しき心に忍びずて、其の御子を治養しまつる縁に因りて、其の弟、玉依毘売に附けて、歌を献りたまひき。 (『古事記』上巻)

「鵜羽神社」「和爾賀波神社」の由緒に関するものとして、『全讃史』及び『香川県神社誌』の記述を、以下に挙げる。

1.1 「鵜羽神社」

2) 「鵜羽大明神」(西瀬元村に在る)

相伝えていること、「上古、海神の長女豊玉姫が、お産に臨んで亀に乗って此の浦に来、鵜草葺不合尊を生み奉ったが、そのお産は羊の子のように安らかであった。それで産婦は此の神に祈れば安全が得られるのだ」と。土地の人は言う、「此の神は寿命を護ることが出来るので、此の浦の人は八九十まで生きない人は無いし、又若死にしたり流行病を患う人も無いのだ」と。又言う、「当時此の神は鰐魚に跨って川を浜り、四条に至って留まれた。それで四条川といい、鰐河というのだ」と。 (『口訳全讃史』)

3) 木田郡 61 「鵜羽神社」

屋島町大字西瀬元字浦生

祭神 鵜草葺不合尊

由緒 屋島町村社八坂神社境外末社。伝ふる所によれば、神代の昔豊玉姫命浦生の地に来り鵜草葺不合尊を生み給ふ。豊玉姫命八尋の産殿を造らせ給ひしかば島の名を八尋島と云ふ。後世に至り山容家の形に似たる故を以て屋島と云へり。姫命又鰐に御して川を遡る。故に鰐河と云ひ河の上に和爾賀波の神社あり。尊御降誕の故を以て安産の神として厚く崇敬せらる。又此の神よく

寿をまもり給ふ故に浦人皆長寿なりと云へり。天平勝宝年間唐土の沙門鑑真浦生に来り当社に誓願して屋島に登れりと伝へらる。一に枯木大明神と称せられ、浦生の人氏神として崇敬す。(三代物語 全讃史 名勝図会 玉藻集 讃州府志)

(『香川県神社誌』)

1.2 「和爾賀波神社」

「和爾賀波神社」は、「延喜式、神名帳」にその名を記されている「式内社」の一である。この「和爾賀波神社」には数社が論社として挙げられており、いずれが「式内社」のそれであるか、にわかに断じ難い。

4) 「和爾賀波神社」

(高岡村四条川のほとりに在る)

土地の人の言い伝えに言う、「海神の長女が亀に乗って山田郡瀬元村の浦に来、鵜草葺不合尊を生み奉った。それで其の地を名づけて浦生という。遂に鰐魚に化って、流れに従って浜り四条に至った。それでその川に名づけて鰐河といい、祠を立ててこれを祀り、鰐河神社という」と。『極楽寺記』にいう、「延喜八年夏四月、高岡八幡を立てた」と。今これを考えるに、元来は豊玉姫を祭神としており、延喜の時八幡神をこれに合祀したのである。(『口訳全讃史』)

5) 木田郡 184 「鰐河神社」

下高岡村字四條

祭神 応神天皇 豊玉姫命

由緒 四條八幡宮、或は高岡八幡宮と奉称せられ、延喜式内和爾賀波神社は当社なりとも云へり。三代物語に『四條八幡宮……和爾賀波神社……高岡一郷社祀之』とあり、全讃史式内祠の條に『和爾賀波神社在高岡村四條川上』、神社考には『和爾賀波神社、高岡一郷の産社』と見ゆ。里人の伝ふる処、海童の女亀に乗りて山田郡瀬元の浦に来り鵜草葺不合尊を生む。因て其の地を浦生といふ。遂に鰐魚に乗り流れを浜りて四條に到る。依て其の川を鰐河と云ひ、亦祠を立てて之を奉ぜし所を鰐河神社と称すといふと。(『香川県神社誌』)

6) 木田郡 214 「和爾賀波神社」

井戸村字熊田

祭神 豊玉比売命 八幡大神 玉依比売命
息長足姫命

由緒 延喜神名式に『讃岐国三木郡一座和爾賀波神社』とありて延喜式内讃岐国二十四社の一といふ。社記に『此郷有川曰鰐川其源從寒川郡南山出流到鴨部郷遂東北入於海昔者海神之女豊玉姫神駕鰐魚遡流覓居地時來座此處面曰是土者甚宜居處也即鎮座因曰居處郷今訛謂井戸郷又此社上有石神名曰世田姫海神也』とありて古く神代の鎮座なりといふ。官社考證に右社記を引きたる後『肥前国風土記佐嘉郡段に郡西有川曰佐嘉川云々此川上有石神名曰世田姫海神謂鰐魚年常逆流潛上到此神所海底小魚多相從之云々……とあるを考合てよ……此神社の東方を流るゝ所謂和爾川の川上寒川郡長尾郷名村に石神と云地ありて、いみじき大石あり、又石神権現と云社もあれば、彼風土記の古伝と此社伝とを熟考るに此所にも上古肥前国佐嘉川の如く此川を海神の逆りて彼石神の所へ往来せし事の時々有しを故縁ありて此井戸郷に其霊を齋祀しにやあらむ』といへり。一説に神代の昔豊玉姫命鰐魚に乗りて屋島の西海より今の晋川を遡り此の処に鎮座し給へり。而して晋川は当時此の地を流れて屋島の西海に入れりと。(『香川県神社誌』)

木田郡 61「鵜羽神社」、木田郡 184「鰐河神社」、木田郡 214「和爾賀波神社」には、海神の娘が川を遡上して、鎮座したとする社伝を有するが、下記の香川郡 256「豊玉依姫神社」には、この社伝はなく、古事記と同じ記述を有するのみである。

7) 香川郡 256「豊玉依姫神社」

雌雄島村大字女木島字宮ノ上

祭神 玉依姫命

由緒 雌雄島村村社八幡神社境外末社。由緒詳ならず。伝説によれば、神代の昔豊玉姫命屋島の西海にて御子を産み綿津見の宮に帰り給ひ、御妹玉依姫命を御子御養育の爲め代りて屋島に遣さる。玉依姫命海神の宮より此の島に御上陸ありて更に屋島に行き給ひしかば、島民其の縁由の地に命を奉祀すといへり。官社考證に『玉依姫神社女木島にあり』と見ゆ。(名勝図会)

(『香川県神社誌』)

「和爾賀波」伝説は、木田郡の、上記の三神社の周辺のみに伝承されたものであるようだ。

2. 「豊玉姫」「玉依姫」の別

以下に、「豊玉姫」「玉依姫」を同一神社に祀った例を拾ってみる。境内神社、合祀祭神は、おそらく、「寄宮」・「勧請」等によって他から遷座したもので、本来は、別の神社として祀られていたものであろう。以下は、すべて『香川県神社誌』の記載に拠る。

8) 木田郡 184「鰐河神社」

祭神 応神天皇 豊玉姫命

境内神社「本宮社」(玉依姫命)

安永元年三月龍宝法印創祀す。

9) 木田郡 214「和爾賀波神社」

祭神 豊玉比売命 八幡大神 玉依比売命
息長足姫命

10) 三豊郡 1「琴弾神社」

祭神 品陀和気尊 息長足姫尊 玉依姫命

境内神社「青丹神社」(豊玉姫命 少彦名命)

『香川県神社誌』では、豊玉姫と玉依姫は区別されている。木田郡 184「鰐河神社」・三豊郡 1「琴弾神社」は本社祭神と境内神社に分かれて「豊玉姫・玉依姫」を祀ってある。これに対し、木田郡 214「和爾賀波神社」は、本殿祭神として「豊玉姫・玉依姫」を併記して祀ってある。この考え方でいくと、木田郡 214「和爾賀波神社」は「豊玉姫・玉依姫」を別神と扱っていることになる。

しかし、往古では、「豊玉姫・玉依姫」は、必ずしも区別は明確ではなかったかも知れず、両者が未分化状態にあったことを伺わせる神社名もある。香川郡 256「豊玉依姫神社」の社号は、「豊玉姫」と「玉依姫」の名を混合したもののようにも思われる。同神社は「名勝図絵」には「玉依姫祠」とある。

3. 鵜草葺不合尊を祀る神社

『香川県神社誌』では、「鵜草葺不合尊」を祀る神社は以下の七社である。

11) 大川郡 275「造田神社」

境内神社「宇間神社」(鵜草葺不合尊)

12) 木田郡 5「引宮神社」

祭神 鵜草葺不合尊 誉田和気尊 豊玉姫命
(一に曰 仲哀天皇 応神天皇 神功皇后)

13) 木田郡 61「鵜羽神社」

祭神 鵜草葺不合尊

14) 香川郡 125「八幡神社」

合祀祭神 阿須波神 婆比支神 高麗神

淤加美神 鵜茅草葺不合命
 玉依毘売命 猿田彦命 道俣神
 菅原道真公 澳津彦命 澳津姫命

少彦名命 大山祇命 日本武尊
 仁徳天皇 火産靈神 安徳天皇
 須佐之男命

表1 「祭神別神社表」

郡市名、NO. 所在地は『香川県神社誌』の記載に拠る。 は筆頭祭神。 は第二筆以降の祭神。

祭神：豊玉姫

郡市	No.	神社名	本殿	境内神社	合祀	所在地
大川	42	龍王				長尾町大字長尾西字千原
大川	72	女体				長尾町大字長尾東字梶ヶ上
大川	151	龍				福栄村大字東山字狩居川
大川	160	龍				福栄村大字西山字兼弘
大川	213	笠峰				松尾村大字田面字森行
大川	219	白井				松尾村大字富田東字友近
大川	219	北地				松尾村大字富田東字友近
大川	275	和爾賀波				造田村大字是弘字川西
木田	5	引宮				平井町大字井上字池上
木田	56	塩竈				屋島町大字東湯元字下畑
木田	184	鰐河				下高岡村字四條
木田	214	和爾賀波				井戸村字熊田
木田	378	雨宮				十河村大字西十河字山田
小豆	1	海				土庄町字宮ノ前
小豆	8	鹿島				土庄町字鹿島
小豆	20	玉比売				池田町大字池田字前山
小豆	119	八幡				福田村大字福田字前浜
香川	79	龍				大野村大字大野字春日野
香川	98	祈雨				川東村大字川東下字山脇
香川	121	童洞				安原村大字安原下字鮎滝下
香川	123	八幡				安原村大字安原下字河北
香川	156	龍王				由佐村大字由佐字三ノ原
香川	185	和田積				円座村大字円座字上本村
香川	258	豊玉姫				雌雄島村大字男木島字殿畑
三豊	1	青丹				観音寺町大字観音寺字南七宝
三豊	52	明				荘内村大字大浜字肥地木
三豊	232	池八幡				麻村大字下麻字上荘田
三豊	242	湊道				財田村大字財田上字旭原

祭神：鵜茅草葺不合

郡市	No.	神社名	本殿	境内神社	合祀	所在地
大川	275	宇閑				造田村大字是弘字川西
木田	5	引宮				平井町大字井上字池上
木田	61	鵜羽				屋島町大字西湯元字浦生
香川	125	八幡				塩江村大字安原上字岩部
綾歌	369	宇閑				栗熊村大字栗熊西字宇ノ井
仲多	120	葛城				十郷村大字十郷字買田
三豊	240	五柱				財田村大字財田上字財田

祭神：玉依姫

郡市	No.	神社名	本殿	境内神社	合祀	所在地
木田	184	本宮				下高岡村字四條
木田	214	和爾賀波				井戸村字熊田
小豆	73	玉姫				安田村大字安田字上植松
小豆	119	八幡				福田村大字福田字前浜
香川	23	廣田				太田村大字太田字鑄地原
香川	26	伏石				太田村大字伏石字紐塵
香川	27	立石				太田村大字伏石字立石
香川	28	居石				太田村大字伏石字居石
香川	29	平石				太田村大字今里字東脇
香川	62	桜木				多肥村大字上多肥字宮本
香川	125	八幡				塩江村大字安原上字岩部
香川	256	豊玉依姫				雌雄島村大字女木島字宮ノ上
綾歌	65	玉依				王越村大字乃生字大越
綾歌	86	鴨				加茂村大字鴨字井手束
親歌	115	楠尾				端岡村大字新居字西谷
綾歌	143	宇佐八幡				山内村大字柏原字奥
綾歌	402	片山				岡田村大字岡田上字西打越
仲多	51	八幡				南村大字山北字道上
仲多	217	加茂				広島村大字広島市井浦字東通
三豊	1	琴弾				観音寺町大字観音寺字南七宝
三豊	27	八幡				観音寺町大字伊吹字宮西
三豊	41	八幡				仁尾町大字仁尾字南草木
三豊	110	正八幡				大見村字深尾
三豊	196	熊岡八幡				比地大村字宮ノ下
三豊	199	八幡				桑山村大字岡本字大池
三豊	200	国木八幡				桑山村大字下高野字中説
三豊	240	鉾八幡				財田村大字財田上字財田
三豊	298	吉岡				一ノ谷村大字吉岡字道上
三豊	300	管生				辻村字西側(山本)
三豊	327	黒島				豊田村大字池ノ尻字黒島
三豊	411	境八幡				柞田村字浜ノ内

祭神：龍王

郡市	No.	神社名	本殿	境内神社	合祀	所在地
木田	266	神明				庵治村字荒浜
仲多	60	日吉				郡家村大字三條字中村

祭神：火須勢理命

郡市	No.	神社名	本殿	境内神社	合祀	所在地
三豊	1	琴弾				観音寺町大字観音寺字七宝

図1.「祭神分布図」

●○豊玉姫
▲△玉依姫
■鵜草葺不合尊
☆竜王
※火須勢理命

小=小豆郡 大=大川郡 木=木田郡 香=香川郡
綾=綾歌郡 仲=仲多度郡 三=三豊郡

15) 綾歌郡 369「宇閑神社」

栗熊村大字栗熊西字宇ノ井(宮ノ浦)

祭神 鵜羽葺不合尊

由緒 延喜神名式に『讃岐国鵜足郡_小宇閑神社』とあるは当社なりとも云へり。三代物語、全讃史、生駒記等は此の説なり。伝ふる所によれば、酒部益甲黒丸は武卵王の裔にして当地に住し酒を醸す。城山長者と称せられ其の家甚だ富む。常に家に井泉なきを憂へしが、邸内に栗の樹あり、鵜樹上に集へるが、或る朝鵜群足を以て地を跑きしに其の処より清水湧出して流を為せり。夜は星影この水に映じて玉の如くなりしより玉の井と称す。郡名鵜足はこれによつて起こる。

16) 仲多度郡 120「葛城神社」

合祀祭神 久久能智神 菅原道真公 大山祇神

菅田別天皇 保食神 少彦名命

鵜茅草葺不合命 久那斗神

八衢彦神 八衢姫神 巖島姫神

上筒之男神 中筒之男神

底筒之男神 神櫛命 天御中主神

17) 三豊郡 240「鉾八幡神社」

境内神社「五柱神社」

(天照皇大神 正哉吾勝々速日天之忍穗耳命

天津日高日子番能邇々芸命

天津日高日子穗々出見命

日子波限建鵜草葺不合尊)

五社神社とも云ふ

これら「鵜草葺不合尊」を祀る神社の内、木田郡 5、木田郡 61、香川郡 125、仲多度郡 120、三豊郡 240は、豊玉姫の子である鵜草葺不合尊を祀る神社と考えて良いと思うが、綾歌郡 369「宇閑神社」の由緒記述は、郡名「鵜足」に関わるもので、これに祭神名を結びつけたものかもしれない。

なお、式内社の「宇閑神社」には、論社として、綾歌郡 371「宇閑神社」がある。

18) 綾歌郡 371「宇閑神社」

岡田村大字岡田下字天神

祭神 竹内宿禰神

相殿 品陀和気命 菅原道真公

合祀祭神 金山彦命

由緒 延喜神名式に『讃岐国鵜足郡_小宇閑神社』

とあるは当社にして式内讃岐国二十四社の一なりと云ふ。御祭神武内宿禰神は履中天

皇の御宇因幡国法美郡宇倍に現れ給ひ、宇倍の神として奉祀せらる。当時大和国葛城郡、美濃国不破郡及び讃岐国鵜足郡に各奉祀して宇閑神社と称す。

綾歌郡 369「宇閑神社」と綾歌郡 371「宇閑神社」では、祭神を全く異にしている。

大川郡 275「造田神社」の境内神社「宇閑神社」はその社名と祭神名から、綾歌郡 369「宇閑神社」から勧請したもののように思える。この大川郡 275「造田神社」の境内神社「宇閑神社」・綾歌郡 369「宇閑神社」の両社を除くと、筆頭祭神として「鵜草葺不合尊」を祀っているのは、木田郡 5「引宮」と木田郡 61「鵜羽神社」のみである。

仲多度郡 120 と三豊郡 240 は、境内神社や合祀祭神の内の一柱である。結局「鵜草葺不合尊」は、木田郡を中心に分布している祭神であることになる。

4. 香川県内での「豊玉姫」「玉依姫」

「鵜草葺不合尊」の分布

『香川県神社誌』の祭神名を資料として、「豊玉姫」「玉依姫」「鵜草葺不合尊」の分布を、図1「祭神分布図」で示してみる。「」は筆頭祭神を示し、「」は第二筆以降の祭神であることを示す。

祭神名は、必ずしも正確なものとは言い難い点はあるし、『香川県神社誌』が県下の全ての神社・祠を残らず網羅しているわけでもない。それでも、図1「祭神分布図」からは、いくつかの傾向が読み取ることができる。

1. 「豊玉姫」を祭神とする神社は、香川郡南部以東に多く、多くは筆頭祭神である。
2. 「玉依姫」を祭神とする神社は、香川郡北部以西に多く、筆頭祭神として「八幡神」が配された後に、第二筆以降の祭神として「玉依姫」が記されていることが多い。
3. 「鵜草葺不合尊」を筆頭祭神とする神社は木田郡に集中している。
4. 海神系である「豊玉姫」「玉依姫」「鵜草葺不合尊」を祭神とする神社は、必ずしも沿岸地域に限定しておらず、内陸・山間地域にも分布している。
5. 内陸部の当該神社は、河川に沿って分布する傾向がある。

「1 .」と「2 .」は、「豊玉姫・玉依姫」を、

別神とは必ずしも断言できぬとすれば、大きな意味を持たぬかもしれない。

「3」については、綾歌郡 369 が「宇閑神社」の祭神名が「郡名」と関わるものとし、大川郡 275「宇閑神社」がその勧請社とすると、豊玉姫と重要なつながりを持っているのは木田郡の神社のみと考えるべきであろう。

「4」と「5」は、特に注目すべきであろう。山中の集落は、谷沿いにしか展開できず、自然、神社の分布も川沿いになる。湊川・津田川・香東川南部は、その例である。それと共に、湊川・津田川・鴨部川・新川・香東川・本津川・金蔵川は、内陸部の当該神社と沿岸部を結びつける仲立ちの役割を担ったのではなからうか。往古の交通が、河川に沿ったル・トを持っていたことは十分に考えられるし、「豊玉姫」が新川・鴨部川を遡って鎮座したとの「和爾賀波神社・鰐河神社・鵜羽神社」の社伝とも符号する。

5. 「豊玉姫」と祈雨

海神の娘である「豊玉姫」が、沿岸を離れた内陸・山間に祭神として祀られる理由は、何であろうか。『香川県神社誌』から、その手がかりとなる記述を拾える。

5.1 祈雨神としての「豊玉姫」

19) 大川郡 151「龍神社」

祭神 豊玉姫命

由緒 名勝図会に『龍王権現境内（東山村宝光寺）つづきの山にあり此山を龍王山といふ。雨請祈願所なり』と見ゆ。

20) 香川郡 185「広旗神社」

境内神社「和田積神社」(豊玉比売命)

文永年中広旗神社氏子等の奉祀せし所にして、香川郡西の請雨祈願所たり。旱魃毎に雨を祈り、大政所並に各村政所役人及び各村組頭は長百姓を惣代として日々参拝するを例とせり。当社に関する費用は総て郡費用として大政所より支弁せられたり。元禄十二年六月大旱あり。同七月請雨祈禱の節著しき神験ありて、藩主松平頼常大に感じ神像を城内に奉遷して崇敬せしが後護智院に遷座し、明治初年石清尾八幡宮に遷り、後又舊祠に復遷せらる。青龍宮と称せられ、初め御神像は長福寺に安置せられたりしが生駒氏広旗神社境内に祠を建て供米若干を附して雨請祈禱所とせりと。

21) 三豊郡 242「溪道神社」

祭神 龍神(一に曰 豊玉姫神 高竈神 闇竈神)

由緒 古来龍王と称へられ祈雨の社として甚だ著名なり。(中略)神社考に『生駒記曰往昔天下強旱百穀不_レ登時此地生_二嘉穀_一因以貢上帝有_二歡感_一賜_二号財田_一……按続日本紀神護景雲二年二月壬寅和泉国五穀不_レ登民無_二種稻_一轉_二讃岐国稻四万余束_一以充_二種子_一生駒記所_レ云蓋此事也』と見ゆ。(中略)同書に『財田上ノ村善女龍王ノ社八谷道ト云フ所ニアリ、……旱魃ノ節八此神社二雨ヲ祈ル時八雨不_レ降ト云フコトナシ。依テ俗説二財田ノ私雨ト云フ(下略)』と見え、

22) 木田郡 378「鯉宇神社」

境内神社「雨宮神社」(豊玉姫命)

23) 香川郡 98「祈雨神社」

祭神 豊玉姫命

大川郡 151「龍神社」、香川郡 185「和田積神社」、三豊郡 242「溪道神社」は、いずれも「祈雨」の注記があり、木田郡 378「雨宮神社」、香川郡 98「祈雨神社」が、社号通りの神社だとすると、これらも祈雨の神社ということになり、祭神はいずれも「豊玉姫」である。これらから見ると、「豊玉姫」は、雨請いの神としての性格をも備えていたと考えられる。

5.2 「龍」としての「豊玉姫」

大川郡 151以外にも、「龍王・龍・竈」の名を持ち、豊玉姫を祭神としている以下の神社がある。

24) 大川郡 42「龍王神社」祭神 豊玉姫命

25) 大川郡 160「龍神社」祭神 豊玉姫命

26) 香川郡 79「竈神社」祭神 豊玉姫命

(一に曰 暗竈神 高竈神)

27) 香川郡 156「冠纓神社」

境内神社「龍王神社」(豊玉姫命)

また、『日本書紀』には、「豊玉姫、方に産むときに龍に化為りぬ。」とあり、豊玉姫を龍とする考えもあったのだろう。

「龍王・^{おかみ}竈」は、次のように説明されている。

龍王 蛇形の鬼類である竜の王のことで、サンスクリットではナ - ガ Nāga . 主として水中に住み、雲や雨を起こす神通力を持つと信じられる。

淤迦美神「オカミ」は一般に「水を司る⁹⁾竜神」と捉えられている。

また、『古事記』上巻の火遠理命に対する海神の言に「吾水を掌れる故に¹⁰⁾」とあるように、海

神は水を自在に支配していたと考えられている。

「海神・龍王・龍」は、いずれも水を司る。そのため、「豊玉姫・龍王・龍」の区別が曖昧になったのではないだろうか。

5.3 「龍王」を祀る神社

「龍王」を祀った神社で『香川県神社誌』に登録されているのは、以下の木田郡 266 と仲多度郡 60 の二社だけである。

28) 木田郡 266 「皇子神社」

祭神 宇治稚郎子命

境内神社「神明神社」(天照大神

一に曰 天照大神 龍王神)

29) 仲多度郡 60 「日吉神社」

祭神 大己貴命

合祀祭神 大地主神 武田勝頼命 龍王神

須佐之男命

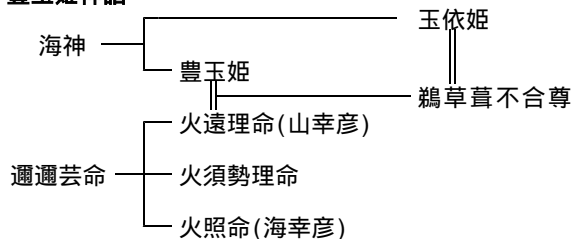
『香川県神社誌』には登録されていないが、「龍王」を祀った祠は多数あるに違いない。

6. 浦島伝説と「豊玉姫」神話

浦島伝説と「豊玉姫」神話の神々の関係を次に対比してみる。

浦島伝説 乙姫
浦島太郎

豊玉姫神話



浦島太郎に相当するのは「火遠理命(山幸彦)」であり、「豊玉姫」に相当するのは乙姫である。

香川県には、「豊玉姫・玉依姫」を祀った神社はあるが、乙姫を祀った神社は『香川県神社誌』には登録されていない。荘内半島の丸山島に「浦島神社」と称される神社があるが、「火遠理命(山幸彦)」を祀った社祠は『香川県神社誌』には登録されていない。ただ、兄弟神「火須勢理命」を祀った神社は三豊郡 1 「琴弾神社」の合祀祭神に一例のみある。

30) 三豊郡 1 「琴弾神社」

合祀祭神 大山咋命 猿田彦命 火須勢理命
結局、香川県では、浦島伝説と「豊玉姫」神話

とは、直接的な結びつきを認められない。

また、「肥前国風土記」佐嘉郡の記述及び近隣諸県の神社伝説については未調査である。

まとめ

神社の祭神名は、必ずしも明確でないことも考えられるが、図 1. 「祭神分布図」からは、ある程度の傾向を読みとることができた。

「和爾賀波」伝説に繋がる神社及び「鵜草葺不合尊」を筆頭祭神とする神社は、木田郡に集中している。

「豊玉姫・玉依姫・鵜草葺不合尊」は、海神系であるが、それらを祀る社は、内陸部・山間部にも分布している。その場合、河川に沿っていることが多く、「豊玉姫」が川を遡上したとする「和爾賀波」伝説とも符号する。河川に沿った往古の交通が存在したであろうことが、「豊玉姫」を祀る神社が川沿いに分布する要因となったものであろう。

また、「豊玉姫」が祈雨の神としての性格を備えていたために、内陸部・山間部でも祀られたものと考えられる。

参考文献

- 1) 『香川県神社誌』、p4、香川県神社職会、(1938)
- 2) 日本古典文学大系『古事記・祝詞』、p143-147、岩波書店、(1958)
- 3) 中山城山編、『全讃史』、(1828)
- 4) 桑田 明 訳、『口訳全讃史』、城山会、(1991)
- 5) 式内社研究会編、『式内社調査報告』「南海道」、皇學館大学出版部、(1987)
- 6) 梶原藍水編、『讃岐国名勝図絵』、(1856)
- 7) 日本古典文学大系『日本書紀・上』、p167、岩波書店、(1967)
- 8) 関口正之、『世界宗教大事典』、p2034、平凡社、(1991)
- 9) 尾畑喜一郎編、『古事記事典』、p106、桜楓社、(1988)
- 10) 日本古典文学大系『古事記・祝詞』、p141、岩波書店、(1958)

注 1 フロベニウスの「失われた釣り針説話」の分布図による。

注 2 この両社は『香川県神社誌』には、記載がない。